

# 下関市子どもの生活実態調査 調査結果報告書（概要）

平成 30 年 3 月 下 関 市

## 1 調査の概要

### （1）調査目的

子どもの貧困対策について、下関市の実情に応じた具体的な施策を検討するため、子ども及びその保護者の生活実態を把握することを目的とする。

### （2）調査内容

調査対象者及び件数は下表のとおりで、住民基本台帳から無作為抽出した。

図表 調査対象者及び件数

5歳児の保護者	1,175世帯
小学校5年生の児童とその保護者	1,175世帯
中学校2年生の生徒とその保護者	1,175世帯
17歳（高校2年生相当）の子どもとその保護者	1,175世帯

### （3）調査方法

郵送法による発送・回収

### （4）調査期間

平成 29 年 11 月 24 日から平成 30 年 1 月 19 日

### （5）回収結果

調査対象者	全体 (世帯)	5歳児	小学校5年生		中学校2年生		17歳 (高校2年生相当)	
		保護者	児童	保護者	生徒	保護者	子ども	保護者
発送数	4,700	1,175	1,175	1,175	1,175	1,175	1,175	1,175
有効回答数	1,771	483	493	517	404	414	333	357
有効回答率	37.7%	41.1%	42.0%	44.0%	34.4%	35.2%	28.3%	30.4%

### （6）低所得世帯（生活困難層）の推定方法

アンケートでは、低所得世帯（生活困難層）の推定について、①低所得、②家計の逼迫、③子どもの体験や所有物の欠如の3つの要素で判定した。

①低所得	③子どもの体験や所有物の欠如
等価世帯所得が厚生労働省「平成28年国民生活基礎調査」から算出される基準未満の世帯 <低所得基準> 世帯所得の中央値 428 万円 ÷ √平均世帯人数 (2.47 人) × 50% = 136.2 万円	子どもの体験や所有物などに関する 16 項目のうち、経済的な理由で、欠如している項目が3つ以上該当 1 海水浴に行く 2 水族館・博物館・美術館などに行く 3 キャンプやバーベキューをする 4 スポーツ観戦や劇場に行く 5 遊園地やテーマパークに行く 6 毎月お小遣いを渡す 7 毎年新しい洋服・靴を買う 8 習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる 9 学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう） 10 お誕生日のお祝いをする 11 1年に1回くらい家族旅行に行く 12 クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる 13 子どもの学校行事などへ親が参加する 14 子どもの年齢に合った本を購入する 15 子ども用のスポーツ用品・おもちゃを購入する 16 子どもが自宅で宿題（勉強）をすることができる場所を用意する
②家計の逼迫	
経済的な理由で、公共料金や家賃を支払えなかった経験、食料・衣類を買えなかった経験などの9項目のうち、1つ以上が該当 1 電話（固定・携帯）などの通信料 2 電気料金 3 ガス料金 4 水道料金 5 家賃や住宅ローン 6 国民健康保険料や国民年金、市民税等 7 家族が必要とする食料が買えなかった 8 家族が必要とする衣服や靴が買えなかった 9 医療機関の受診ができなかった	

<<生活困難層（困窮層・周辺層）と一般層の定義>>

生活困難層	困窮層+周辺層
困窮層	2つ以上の要素に該当
周辺層	いずれか1つの要素に該当
一般層	いずれの要素にも該当しない

(1) 生活困難層の割合

	全体	5歳児	小学5年生	中学2年生	17歳 (高校2年生相当)
生活困難層	28.1%	25.4%	25.0%	31.7%	32.2%
困窮層	11.8%	8.3%	11.0%	13.1%	16.3%
周辺層	16.3%	17.1%	14.0%	18.6%	15.9%
一般層	71.9%	74.6%	75.0%	68.3%	67.8%

(2) 「低所得」「家計の逼迫」「子どもの体験や所有物の欠如」の割合

	全体	5歳児	小学5年生	中学2年生	17歳 (高校2年生相当)
低所得	6.9%	4.8%	6.4%	9.7%	7.3%
家計の逼迫	18.4%	15.5%	17.6%	19.8%	21.8%
子どもの体験や 所有物の欠如	13.7%	12.0%	10.4%	15.9%	18.2%

## 2 現状と課題

### (1) 3つの観点からみる本市の生活困難層の現状

#### ① 世帯の経済状況からみた現状

表 生活困難度が高い層の特徴（世帯の経済状況）

項目	生活困難度が高い層の特徴
住宅状況	持ち家の割合は低く、ひと月あたりの家賃では「1万円～3万円未満」の割合が高い
就労状況	父親が正社員である割合が低く、母親が正社員以外で働いている割合が高い
経済状況	世帯収入が年間300万円未満の割合が高い
	最も負担になっている費用は「子どもの教育費」の割合が高く、将来のための貯蓄ができていない割合が高い
	経済的理由で文具や教材を買えなかった割合が高い
経済的理由による体験や所有物の有無	海水浴や水族館に行く、キャンプやバーベキューをする、スポーツ観戦をするなどのレクリエーションの機会が金銭的な理由で「ない」と回答した割合が高い
	毎月小遣いを渡す、習い事に通わせる、学習塾に通わせるなどの機会が「経済的にできない」割合が高い
主観的認識	現在の暮らしの状況を「苦しい」と感じている割合が高い
制度の利用状況	就学援助制度を利用している割合が高い

#### ② 世帯構成員の属性・意識からみた現状

表 生活困難度が高い層の特徴（世帯構成員の属性・意識）

項目	生活困難度が高い層の特徴
保護者の最終学歴、成人前の経験	父親、母親ともに大学卒業の割合が低い
	父親、母親ともに成人前の経験について、親の離婚や経済的困窮を経験している割合が高い
子どもの学習状況・希望する最終学歴	学校がある日、ない日を問わず、勉強をまったくしない割合が高い
	学校の勉強を理解できる割合が低い
	学校の成績が「よい」割合が低い
	最終学歴を「大学・短期大学」と希望する保護者の割合が低く、また、子ども自身も「大学・短期大学」を希望する割合が低い
健康状態	自宅で勉強ができる場所を用意できる割合が低く、本や新聞を読むようにすすめる、勉強を教えることを心がけている保護者の割合が低い
	健康状態がよいとする割合は子どもも保護者自身も低い
	子どもに規則正しい生活習慣を身につけさせるよう心がけている割合が低く、毎日朝ごはんを食べさせるよう心がけている割合が低い
	睡眠時間が短い子どもの割合が高い
	朝ごはんを毎日食べる、風呂に毎日入る子どもの割合が低い
子どもの自己肯定感	歯磨きを毎日する子どもの割合が低く、むし歯がある割合が高い
	自信の有無、大人への信頼度、将来の夢や目標の有無等の10項目すべてにおいて、一般層に比べて困窮層は自己肯定感が低い傾向にある

### ③ 社会とのかかわりからみた現状

表 生活困難度が高い層の特徴（社会とのかかわり）

項目	生活困難度が高い層の特徴
相談相手の有無	父親、母親ともに心おきなく相談できる相手がいる割合が低い
	父親・母親に相談できる割合が低く、また「誰にも相談しない」子どもの割合が若干高い
保護者の地域とのかかわり	近所付き合いの程度について「ほとんど付き合いはない」とする割合が高い
子どもの学校とのかかわり	学校生活の状況について「楽しい」という子どもの割合が低い
子どもの友だちとのかかわり	「信頼できる友だちがいる」、「気軽に相談できる友だちがいる」子どもの割合が低い

#### (2) 調査結果を踏まえた今後の課題

##### ① 生活支援（経済的支援）、就労支援の必要性

- 必要としている支援について、全体では「子どもの就学費用の援助」を望む声が最も高くなっており、次いで、「病児保育の充実」、「一時的に必要となる資金の借入」となっている。
- 困窮層（表を参照）では、「就学費用の援助」に次いで「一時的に必要となる資金の借入」の割合が高くなっており、経済的な負担を減免する支援への期待が大きいことがうかがえる。
- 次に高いのは、「就職のための支援が受けられること」である。父親、母親ともに正社員である割合が低いことから、世帯収入が低水準となっている可能性があるため、ここでは、無職からの就職支援だけでなく、非正規社員から正規社員への転換の支援の期待も込められているものと推察される。

表 現在、必要としている支援（困窮層の場合）

順位	困窮層が必要としている支援
1位 (77.1%)	子どもの就学にかかる費用が援助されること
2位 (32.9%)	一時的に必要となる資金が借りられること
3位 (18.8%)	就職のための支援が受けられること
4位 (15.9%)	子どもが病気の際に預けることができる病児保育の充実
5位 (15.3%)	病気や障害のことなどについて専門的な支援が受けられること
5位 (15.3%)	子どものことや生活のことなどの悩みを相談できるところ

##### ② 子どもの生活習慣・学習習慣改善のための支援の必要性

- 困窮層の家庭では、生活面や学校・学習面において、保護者が十分に関与できていない可能性がある。そのため、子どもの規則正しい生活習慣の定着に向けた働きかけや、基礎学力の定着に向けた環境づくりなどが必要である。
- 調査結果では、子どもが一人で食事をすることがないような居場所の利用について、困窮層では2割近くが希望している。
- 無料で勉強を教えてもらえる場所の利用について、6割近くが希望している。このことから、家庭と学校だけでなく、地域全体における子どもの育ち、学びを支援する場づくりが重要である。

### ③ 相談窓口の充実、認知度向上の必要性

- ・ 困窮層の家庭は、経済的な事情もあいまって、社会的なネットワークから孤立しており、心おきなく相談できる相手がいない可能性がある。そのため、自らの抱える困難について話を聴いてもらえる場所の提供や、悩みを受け入れてもらえる相談体制の充実が求められている。
- ・ 調査結果では、公的相談窓口の認知度についてみると、保健所、児童相談所、こども発達センターは全体の半数を超えているものの、その他の公的相談窓口の認知度は半数以下となっており、十分には知られていない状況である。
- ・ 困窮層では、これらを含め、ほとんどの公的相談窓口の認知度が一般層に比べ低くなっている。
- ・ 困窮層が必要としている支援にかかわる相談窓口の認知度を向上させるとともに、家庭、学校、地域の多岐にわたる課題を包括的に支援する体制づくりや地域のネットワークの構築が求められる。

## 【 参 考 】 調査結果の概要

### <保護者調査の結果の概要>

#### (1) 生活困難層の状況 (P. 12)

- 生活困難層の分類：困窮層は 11.8%、周辺層は 16.3%、一般層は 71.9%
- 世帯類型別にみると、母子世帯で困窮層の割合が約 5 割

#### (2) 世帯の状況 (P. 13～)

- ひと月あたりの家賃：困窮層では「1万円～3万円未満」、周辺層、一般層では「5万円～10万円未満」と回答した割合が、最も高い。

#### (3) 子どもの状況 (P. 19～)

- 朝ごはんを食べる習慣：「毎日・ほぼ毎日」と回答した割合は、困難度が高いほど低い。
- 晩ごはんを食べる習慣：「毎日・ほぼ毎日」と回答した割合は、全体で 98.8%となっており、生活困難層の分類別にみても大きな差は見られない。
- 子どもが朝食を一人で食べる頻度：「よくある」「ときどきある」と回答した割合は、子どもの年齢が上がるにつれて高い。  
※ 生活困難層の分類別では、「よくある」「ときどきある」と回答した割合は、一般層で 20.4%であるのに対し、困窮層では 35.3%
- 子どもが夕食を一人で食べる頻度：「よくある」「ときどきある」と回答した割合は、全体では 12.9%に対し、生活困難層の分類別では困窮層が 24.7%、世帯類型別では母子世帯が 29.8%と高い。
- 子どもが一人で食事をするのがないような居場所の利用希望：「利用させたい」と回答した割合は、困窮層で 18.2%と高い。

#### (4) 子どもとのかかわり (P. 37～)

- 子どもと保育所・幼稚園・認定こども園、学校の生活の話をする：「ほぼ毎日」と回答した割合は、一般層で 65.7%、周辺層で 67.2%、困窮層で 54.1%と、困難層で低い。
- 子どもと一緒に遊ぶこと：「めったにない」と回答した割合は、困難度が高いほど高い。
- 子どもを学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）こと：「している」と回答した割合は、困難度が高いほど低くなっており、困窮層では「経済的にできない」と回答した割合が 73.5%と高くなっている。
- 子どもの学校行事などへ親が参加すること：「している」と回答した割合は、全体で 97.0%、未就学児で 99.2%、小学生で 98.8%、中学生で 97.1%、17歳で 91.0%となっており、生活困難層の分類別、世帯類型別にみても、大きな差はない。
- 子どもが自宅で宿題（勉強）をすることができる場所を用意すること：「している」と回答した割合は、困難度が高いほど低くなっており、困窮層では「経済的にできない」と回答した割合が 20.0%と高い。
- 子どもに規則正しい生活習慣を身につけさせること：「大変心がけている」と回答した割合は、困難度が高いほど低くなっており、困窮層では 34.7%
- 子どもに毎日、朝ごはんを食べさせること：「大変心がけている」と回答した割合は困難度が高いほど低くなっており、困窮層では 68.2%

(5) 子どもの進路 (P. 64～)

- ・ 希望する子どもの最終学歴：「大学・短期大学」と回答した割合は、困難度が高いほど低くなっており、「高校」と回答した割合は、困難度が高いほど高い。
- ・ 希望通り進学できると思うかについて：「思う（進んだ）」と回答した割合は、困窮層で44.3%、周辺層では49.3%となっており、一般層（61.8%）とは差がある。  
※ 希望通り進学できると思わない理由：困窮層では「経済的な余裕がないから」と回答した割合が7割を超える。

(6) 子どもの支援ニーズ (P. 68～)

- ・ 無料で勉強を教えてもらえる場所の利用希望：『利用したい』（「利用したい」と「どちらかという利用したい」を合わせた割合）と回答した割合は、困難度が高いほど高い。  
（場 所）「住んでいる中学校区内」と回答した割合が最も高い。  
（頻 度）「週に1～2回程度」と回答した割合が最も高い。  
（時間帯）「平日の学校が終わってから18時まで」と回答した割合が最も高い。

(7) 子どもの母親、父親の状況 (P. 73～)

- ・ 父親の就業状況：「勤め（正社員）」と回答した割合が困窮層では低い。
- ・ 母親の就業状況：「勤め（正社員以外）」と回答した割合が困窮層で高い。
- ・ 父親の収入状況：「300万円未満」と回答した割合は、困難度が高いほど高い。
- ・ 母親の収入状況：「300万円未満」と回答した割合は、困難度が高いほど高い。

(8) 地域とのかかわりや子育て支援のニーズ (P. 97～)

- ・ 知っている子育て支援サービス：「児童手当」と回答した割合が全体で95.8%と最も高く、次いで「ふくふくこども館」85.0%、「出産育児一時金」83.7%の順  
※ 困窮層では「児童手当」92.9%、「ふくふくこども館」76.5%、「出産育児一時金」77.1%
- ・ 必要とする支援：「子どもの就学にかかる費用が援助されること」と回答した割合が全体で44.2%と最も高く、次いで「子どもが病気の際に預けることができる病児保育の充実」12.8%、「一時的に必要な資金が借りられること」10.7%の順  
※ 困窮層では「子どもの就学にかかる費用が援助されること」が77.1%、「一時的に必要な資金が借りられること」が32.9%で、一般層と比べ高い。
- ・ 近所付き合いの程度：「ほとんど付き合いはない」と回答した割合が困窮層で10.6%と高い。

(9) 世帯の経済状況 (P. 105～)

- ・ 年間収入（税込）の合計額：困窮層では「300万円未満」と回答した割合が42.9%と高い。
- ・ 収入の方が支出より少ない世帯での、最も負担になっている費用：「住宅ローン」、「子どもの教育費」と回答した割合が全体でそれぞれ21.7%と最も高く、次いで「食費」16.0%
- ・ 現在の暮らしの状況：『苦しい』（「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた割合）と回答した割合は、困窮層で95.9%、周辺層で79.2%と困難度が高いほど高い。
- ・ 公的相談窓口の認知度：「保健所」と回答した割合は全体で74.6%と最も高く、次いで「児童相談所」61.3%  
※ 困難度が高いほど「知っているものはない」と回答した割合が高い。

## <子ども調査の結果の概要>

### (1) 生活習慣の状況 (P. 124)

#### (2) 学校生活の状況 (P. 125～)

- ・ 学校生活が楽しいかについて：『楽しい』（「楽しい」と「まあまあ楽しい」を合わせた割合）と回答した割合は、全体で 86.8%だが、困窮層では 79.7%と低い。

#### (3) 勉強の状況 (P. 129～)

- ・ 学校がある日の1日あたりの勉強時間：「まったくしない」と回答した割合は、全体では 8.5%となっているが、困窮層では 19.7%と高い。
- ・ 学校の勉強の理解度について、『わかる』（「よくわかる」と「だいたいわかる」を合わせた割合）と回答した割合は、全体では 81.5%となっているが、困難度が高いほど低くなっており、困窮層では 74.0%
- ・ 希望する最終学歴：「大学・短期大学」と回答した割合は、全体では 41.1%となっているが、困難度が高いほど低くなっており、困窮層では 26.3%

#### (4) 悩みの状況 (P. 134～)

- ・ いやなことや悩んでいることについて、「いやなことや悩んでいることがない」と回答した割合は、全体で 51.4%となっているが、困難度が高いほど低くなっており、困窮層では 39.1%と低い。  
※ 「進学・進路のこと」と回答した割合は、困難度が高いほど高い。

#### (5) 人付き合いの状況 (P. 139～)

- ・ 周りにいる友だち：「信頼できる友だちがいる」と回答した割合は、77.3%、「気軽に相談できる友だちがいる」が 69.3%  
※ 困窮層では、「信頼できる友だちがいる」と回答した割合は、66.9%、「気軽に相談できる友だちがいる」は 62.4%と若干低い。

#### (6) 自己肯定感 (P. 141～)

- ・ 「大人は信用できる」について：『あてはまる』（「あてはまる」と「どちらかというとあてはまる」を合わせた割合）と回答した割合は全体では 76.5%となっているが、困難度が高いほど低くなっており、困窮層では 66.9%
- ・ 「将来の夢や目標がある」について：『あてはまる』（「あてはまる」と「どちらかというとあてはまる」を合わせた割合）と回答した割合は、全体では 76.5%となっているが、困窮層では 72.9%と若干低い。
- ・ 「今の自分が好きだ」について：『あてはまる』（「あてはまる」と「どちらかというとあてはまる」を合わせた割合）と回答した割合は全体では 66.7%となっているが、困難度が高いほど低くなっており、困窮層では 58.6%となっている。